



公益社団法人 日本山岳会

宮崎支部報

第65号

公益社団法人
日本山岳会宮崎支部第35回定例総会

支部総会参加者

総会を終えて 支部活動の課題とその克服

支部長 荒武 八起

総会開催に際しましては年度はじめのお忙しい中、多数ご列席頂きました事、心より感謝申し上げます。さて、わたくし共、新役員として早や一年となりました。全く不慣れな中での船出でしたが、会員の皆様の温かいご支援ご教示を賜りまして、何とか乗り越える事ができました。この場をお借りし厚くお礼申し上げます。

29年度の支部行事を振り返りみますと、9月の定例登山で予定しておりました天の古道が台風の影響で中止されたのを除けば、天候にも恵まれ楽しい登山ができたものと思います。その中で特記すべき事は、8月11日に「山の日ときめき家族登山in大浪池」として参加者を募りましたところ、児童を含む24名の参加者を得ることができました。後日、感謝を込めた多数のお手紙を頂きました事から、このイベントは成功だったものと考えます。年間を通して、全ての行事が順調に実施できたのは、会員の皆様のご支援の賜物と改めてお礼申し上げます。

支部の運営につきましては、残念ながら、今年度に入りまして、前役員の方3名が相次いで、そして病気療養中など体調不良のため2名、さらに会友2名が退会されました。退会届を頂きました折に

は慰留に努めたのですが、それが果たせなかったのは私の力の無さと深くお詫び申し上げます。しかし、一方では、嬉しい事もありました。それは正会員が一名増えた事、そして会友として7名の方々に加わって頂いたことです。

1. 会員の増強

現在、宮崎支部における会員数は48名(支部会友16名)です。グラフに示すように、1985年に23名で発足し、50名前後で推移しましたが、1997年頃より急増しピーク時は125名までになりました。これには大谷元支部長がNHK登山教室の講師を委嘱され多くの受講者を指導された事が背景にあります。しかしながら、それ以降はほぼ直線的に減少し続け、現在は1990年代とほぼ同じレベルまで減少しました。この減少傾向にストップをかけ、最低でも50名をキープしなければ支部存続の危機ともなりかねません。このことを会員一人ひとりが危機感を持つことが必須と思われます。そして、本部から提案されていますように友達や身近な方々の勧誘をはじめ公募による家族登山、登山教室などを通して人材の発掘が必要と考えます。前支部長の末永顧問が「支部の活性化と会員

の増強は表裏一体をなす」と以前より言われていますように極めて重要な課題であります。これからも地道に辛抱強く勧誘を続けて行かなければならないと考えますが、自信をもって勧誘するためには、我が支部が魅力的でなければなりません。その一策として、定例研究会においてはミニ講話の時間を設け、山行に直結する事はもとより、知って得な事などを披露する時間としました。皆様の積極的なご協力とアイデアの提供などをお願い申し上げます。

2. 高齢化問題

会員の高齢化問題対策につきましては、若い会員の獲得しかありません。しかし、高齢化について見方を変えれば、それだけ永く会員として在席できる魅力が日本山岳会にあると言えるのではないのでしょうか。健康長寿、医療費削減の観点からも高齢者登山については、行政からもっと高く評価されるべきでしょうし、日本山岳会としてもより積極的に取り組む課題と考えます。高齢者には体力に見合った山を選択して頂き、山歩きが困難な会員には山野草の観察などを通して生涯現役で自然に親しむことができる施策が必要と思われます。

3. 他団体との協調

支部を活性化するためには市中で活動されている山に関する他団体との協調も重要と考えます。例えば、宮崎市内から最も近く登山人口も年間を通して多い双石山にはトイレがありません。小谷登山口付近への設置を希望していますが、各団体が個別に動いても行政を動かすには力不足です。そこで、他団体と協調することで環境問題や登山道の整備などの進展が期待できます。さらに、安全登山教室などを共同開催することにより山岳事故の防止にも貢献できるものと考えられます。



盛り上がった懇親会

総会終了後、場所をホテルメリュージュに移して懇親会が開催された。日高研二副支部長の名司会により出し物が相つぎ、大いに盛り上がった。最後は全員で山の歌を合唱し、石井会員の万歳三唱で閉会した。



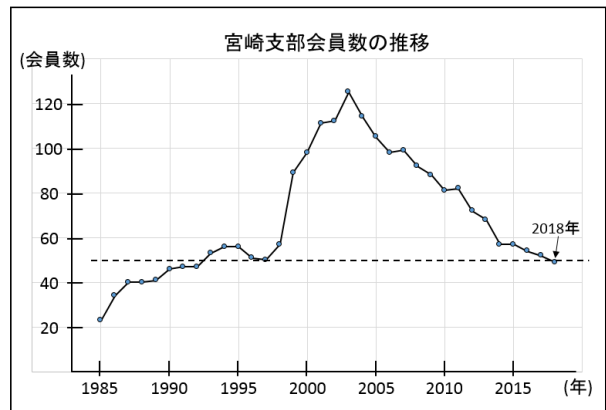
4. 遭難・事故防止対策

遭難・事故防止につきましては、昨年12月25日付けで施行されました遭難対策規程を厳守しなければなりません。規程によりますと支部の定例山行のみでなく個人山行についても支部山行委員会に登山計画書を提出して頂き、山行委員による検証・確認を得た上で支部事務局から本部遭難対策委員会に提出することになります。多くの会員が高齢となった現在、脚力やバランス能力の低下が問題となります。宮崎支部も数年前に重大事故を経験していますので、事故防止につきましては、最重要課題として山行委員会を中心に安全登山や体力増強に関する講習会等の開催が今まで以上に望まれます。

5. その他

宮崎支部は小世帯ですが、逆にそれを生かして定例の山岳研究会などにおいては、形式にとらわれず自由な中で忌憚のない意見を出し合える雰囲気づくりを進めてまいりたいと思います。そのことが信頼関係を深め、ひいては安全で楽しい山行に繋がるものと考えます。

総会後の記念講演として今回は、会員でもあります吉田直人・宮崎大学教授に「双石山湧水中から発見された珍しい紫色細菌」と題してご講演頂きました。魅力ある宮崎支部にするための施策について、皆様の積極的なご意見を頂きまよう切にお願い申し上げます。



第35回宮崎支部定例総会記念講演

双石山湧水中から発見された珍しい紫色細菌

湧水中の細菌数から地震予知

宮崎市加江田双石山の九平登山口には、山岳地下水が集まり湧水となる場所があり、水文学的にも興味深い。塞止め水場が設けられ、手軽に山岳水を取水できることで地元民に親しまれている。

双石山は地殻変動により海底が隆起してできた岩体である。礫岩や粗粒～中粒砂岩から構成され比較的風化には強いといわれているが、地中にしみ込んだ降雨は、亀裂や風化により透過性を保持するようになった砂礫層を通過し、濾過されるように帯水層に集約されて地表に湧き出していると考えられる。湧水中には多種の細菌が含まれている。これらは地中表面に生息している細菌が降雨によって共に浸透し入り込んだもの、あるいは砂礫表面に吸着していた細菌がはがれ出たものなどが考えられる。地震動の前段階に生じるスロースリップ現象や微弱振動等は砂礫に吸着した細菌の剥奪を促進するかも知れない。このような理由で本研究室では山岳湧水中の細菌数の変動と地震動との関連性を調べ、地震予知の可能性を探っていた。

双石山湧水の水質

水道法による細菌数測定では、双石山湧水はまったく清浄であり飲料に適しているといえる。しかし栄養源濃度を薄めた貧栄養培地を用い、培養時間を長くすると、水道法による測定をはるかに超える細菌数を測定できることがわかった。湧水中には有機物がほとんどないので、貧栄養性細菌が多く検出されることは整合的である。また湧水中からは大腸菌様細菌が検出されることがあり、獣の活発な行動も予想できると思われる。

紫色細菌の発見と利用

貧栄養培地を使って双石山湧水中の細菌数を計測していく中で、美しい紫色のゼラチン状コロニーを形成する細菌が偶然発見された。この細菌は一般的な栄養源豊富な培地では生育せず、栄養源の量を極端に抑えた培地で旺盛な生育を示す貧栄養性細菌であるといえる。紫色色素の生産に必須である条件は、1)わずかな有機物量、2)わずかな食塩(涙の塩濃度の半分程度)、そして3)涼しい環境である。この条件が一つでも欠けると紫色色素は生産されなくなってしまう。さまざまな化学的手法で紫色色素を分析すると、紫色色素はピオラセインと呼ばれる物

吉田ナオト (No.12630)



質であることが判明した。ピオラセインはある種の微生物に対して抗菌作用があることが知られている。2008年にはイモリの皮膚から同様の紫色色素を生産する細菌が分離されたという報告がある。紫色細菌はイモリの皮膚に共生しており、ツボカビ病の罹患を軽減する効果を示すのではないかと主張している。双石山湧水から分離された紫色細菌も、ニホンアマガエルの幼生と共に劣悪環境下で飼育すると、幼生の延命が観察された。紫色細菌は病原細菌の生育を抑制し、幼生の細菌症罹患を防いでいると考えられる。

山岳生態系を考えるならば、おそらく紫色細菌は両生類の皮膚表面に共生しており、互いに利益を分け合っていることが挙げられる。湧水中に出現するのは、何からの理由で両生類皮膚から遊離し、湧水中に入り込むようになるのではないか。双石山湧水中の紫色細菌は秋から冬にかけて多く出現するようになる。この理由はまだよくわからないが、山岳両生類の活性と関係があるのかもしれない。

紫色細菌の利用としては、山岳環境保全のための一指標として利用できるであろう。紫色細菌と両生類の活動は連動していると思われるので、紫色細菌数の計測は山岳両生類の活動を推定するバイオマーカーたりえる。また産業利用としては天然の青紫系色素は少ないので、紫色細菌が生産するピオラセインはこれまでにない新規染色剤としての用途が期待できる。

(教授・吉田ナオト、宮崎大学農学部 応用生物科学科 微生物機能開発学研究室)

【4月定例山行】 遠見場山(337.3m) 4月23日(日)

花の彩る三十三観音祈りの道へ

久しぶりに大勢の参加者でマイクロバスは賑やかである。のどかな春の朝6:30、ヤマダ電機駐車場を出発。参加者は会員・会友と元気な小4の鬼塚晃輔君の総勢31人。途中1回トイレタイムを取り延岡市浦城港に9:00着。高速船クイーンにつぼうに乗船し、15分で目的地島野浦港に着いた。澄み渡る港の空にはトンビが舞い、海の香りに心が躍る。

リーダーは武田さんと黒岩さん。2班に分かれ目的地ヒダラ松峠に歩を進める。途中三十三観音様が居並び、お祈りをしながら道の両脇に燃えるような見事なミツバツツジの花のトンネルの中を歩く。満開は少し過ぎてはいるが真っ赤な美しさに圧倒された。山道は木漏れ日の射す気持ちの良いアップダウン。この道は津波時の避難道にもなっているらしい。

全員無事峠に到着し、皆はここで昼食をする。健脚の7人はさらにこいのぼりの泳ぐ岬へと歩を伸ばす。全員揃ったところで記念撮影。この場所から美しい日向灘が見渡せ黄金伝説の沖の小島の十字架も見えた。下山は往路と同じ道を途中まで歩き、山野草の咲く道へと歩く。本日のメインの花はイカリソウで小さく真っ白な可憐な花である。薄紫の美しいタツナミソウは島

清家 順子(13049)

に向かう波頭のような。オドリコソウの群生も美しく、葉っぱに隠れて居並ぶナルコユリの蕾も可愛く、黄色いキケンマにも会えた。途中迷い道もありながら気が付くと眼下に港。予定より1時間早いフェリーに乗船でき、港に待っていたバスに乗り換え帰途についた。車中での「黄金の伝説、メキシコ女王の棺と財宝」の秘話の朗読は、人の心の葛藤が面白く身につまされ、また山の歌など歌いながら楽しく過ごせた。

美しい日本、広い海、楽しい山岳会を感じる一日であった。お世話いただいた方々、参加者の皆様有難うございました。

<コースタイム>

ヤマダ電機駐車場6:30集合—はゆまIC8:10—浦城港9:10—浦城港発9:40—島野浦港着9:55—登山口出発10:10—ヒダラ松峠11:40—ヒダラ松峠出発12:40—島野浦港着13:45—島野浦港発14:45—浦城港着15:00—はゆまIC15:40—ヤマダ電機駐車場着18:00

<参加者31名>

祐恵子・久峯慧子・清水弘子・清家順子・谷口敏子・黒岩タカ子・多田登美子・恒吉紹子・服部澄子・橋口三枝子・鬼束友美・林田明美・栗巣タツ子・蔵屋とよ・松木アツ子・高橋節代・深田美恵子・熊本尚子・前原満行・荒武八起・都甲豊好・吉田直人・日高研二・末永軍朗・谷口菊美・武田芳雄・酒井保男・多田周廣・四宮林三・小松平内・鬼束晃輔(合計31名)



タツナミソウ



ナルコユリ



ミツバツツジを背景に集合写真



島への移動は高速船で



イカリソウ

【5月定例山行】 冠岳(438m) 5月12日(土)

冠岳は日向市東郷町の耳川を挟んだ対岸にある。3,4月はツツジ等が美しい。5月のこの時期は夏に続く花と入れ替わる。宮崎市からの20名は小型バスを仕立て都農道の駅を経由し、日向市中央公民館駐車場で日向市からの参加者および九州保健福祉大学の学生と合流し東正面登山口に向かう。総員33名の顔合わせ後、体操を行いA,Bの2コースに分かれて出発。各コースの状態はお互いに無線と電話で確認、互いに安心できた。冠岳のルート開拓は主に日向の黒木さん、整備は平田さん達がされていると聞く。多くの横道があり地形を熟知しないと混乱しそうだ(畑島)。

<Aコース> 拵 恵子 (12534)

当日は天候も良く絶好の登山日和。健脚コース(A)と一般コース(B)に分かれての登山となった。私は健脚コースに参加した。杉林の緩やかな登山道を登って行くと、待っていたのは槍岩の登りであった。急な岩場をロープを頼りに、手ごたえのある山登りだなあとthinkながらどうにか登りきった。ようやく岩場を過ぎると展望が開け、何んと崖っぷちにササユリの花が咲いているのを見ることができ感激した。第二展望所、旗台展望所からの眺めも素晴らしい!! 登山道はよく整備されていて歩きやすく、木陰の中を時々さわやかな風に吹かれて楽しく歩くことができた。宮ヶ原岳から山の神を経て南冠岳へ。それぞれに記念写真をとった。さて、ここからは東正面登山口を目指して下山。急な下り、岩場があったりして緊張しながらの下山となったが、全員が怪我もなく無事下山できた。冠岳は時間的にも登りやすく町のすぐそばにありながら、いろいろと変化のある魅力的な山だなと改めて思った。若山牧水も登ったことがあったのかな・・・と思いつつながら冠岳を後にした。

<Aコースタイム>

登山口9:40－第二展望台10:45－北冠岳10:55－旗台展望所11:20(11:45)－宮ヶ原岳12:33(12:50)－山の神13:10－南冠岳13:40(13:50)－登山口14:45

<Bコース> 畑島 良一 (13900)

学生を含め20名。沢沿いの樹林帯は浮石が多い。5合目から北冠岳コースに入り尾根道までは急登が続く。天空の路は、急曲した耳川の対岸に東郷町が見渡せ、最高のロケーションである。常に学生の明るい声が飛び交う。なだらかな北冠岳から旗台展望所で昼食。A班と合流。展望は抜群。南冠岳はなだらかな尾根上にある。5分程下った一枚岩を見学。下りは長く感じる。途中炭焼き当時の生活を橋口さんから説明があった。今回は学生の参加もあり、安全を含めた行程管理などで賑やかな良い山行であった。

<Bコースタイム>

登山口9:40－天空尾根10:45－北冠岳11:05－旗台展望所(11:30～12:00)－南冠岳12:20－登山口13:40

<参加者>

A班 拵恵子・清水弘子・服部澄子・栗林淳子・橋口三枝子・前原満之・服部岩男・四宮林三・平田五男(支部会員9名、他3名(日向)、計12名)

B班 谷口敏子・多田登美子・恒吉詔子・荒武八起・都甲豊好・武田芳雄・多田周廣・橋口邦彦・恒吉克範・畑島良一(支部会員10名)、他11名(鶴田鎮丈、九州保健福祉大学学生10名)、計21名



登山口にて
総勢33名

2018年度日本山岳会自然保護全国集会(提出原稿) 於:石川、会期:2018年7月8日

宮崎支部の自然保護活動

宮崎支部自然保護委員長 前原満之(9878)

宮崎支部の自然保護活動は、2001年(H13)4月の委員会制度発足を契機に、自然保護委員会の活動として積極的に取り組むことになった。

1. 森づくり活動

登山を通じて自然に親しんでいる我々は、登山行為そのものが自然を傷つけずには成り立たないことを痛感する中で、自然に対しなすべき具体的な実践活動として森づくりを始めることになった。

2001年(H13)～2002年(H14)、3ヵ所に植樹後、手入れを続けてきた。その結果現在、春には会員が種から育てた苗木のヤマザクラが咲いている。

1) 宮崎支部森づくり活動の特徴

宮崎支部の森づくり活動は、自然保護委員会が担当し、会員のみで活動している。さらに、自然保護委員長が事務局をしている市民活動団体「水源の森づくりをすすめる市民の会」に団体加入しており、そこでの活動が市民と連携した活動となっている。

2) 今後の予定

3ヶ所とも下草刈が一段落し、枝打ち徐伐等の育林作業をして行こうと考えていたが、田野の森について今まで手入れをしてこなかった個所があるため、当面はその手入れを中心に年2回の育林作業を続けて行きたい。

2. 宮崎自然休養林の登山道

我々が最も身近な山として親しんでいる双石山等の宮崎自然休養林の管理は現在、「宮崎自然休養林保護管理協議会」となっている。その構成メンバーに宮崎市山岳協会があり、当支部は30年度より市山岳協会に入会する事とした。従って今後はその市山岳協会の一員として、宮崎自然休養林登山道の点検・管理等に協力して行くことしたい。

3. 森林保全巡視員

他支部でも取り組みがなされている、森林保全巡視員(森林管理局職員による国有林の森林保全巡視活動を補完する役割)の委嘱を、平成30年度から受ける事とした。登山時に気付いた国有林の異常その他特別の状況を認めた場合、随時森林管理局に報告し協力して行くこととする。なお、巡視員の登録は役員、支部自然保護委員等合わせて12名である。

4. 清掃登山

1996年(H8)から毎年12月、双石山、斟鉢山、花切山、青井岳等の清掃登山を実施している。宮崎市街地に近く、多くの人が訪れる山をきれいに保っていきたい。

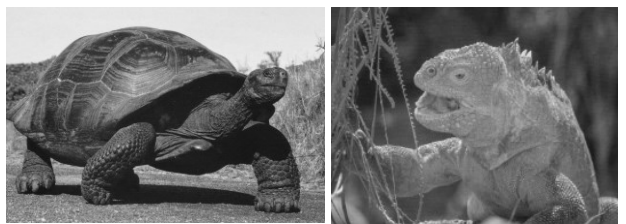
動植物の楽園ガラパゴス諸島 2月24日～3月7日

久峯慧子(12563)

エクアドル(スペイン語で“赤道”と言う意)国に所属するこのガラパゴス諸島は1978年自然遺産第一号として登録され、面積10㎢を超える主要な13の島と100以上の島とからなる。地球上でここでもしか生育しない固有種が数多く見られる。

24日 エクアドルの首都キトに到着(2,850mの高さにあり世界で2番目に高い首都、日本との時差は-14時間)。25日 キト市内の赤道の通っている場所へ行く。赤道を跨いで色々な体験をする。南半球は水流が右回り、北半球は反対の左回り、赤道に立つと真下に流れる。その他色々な貴重な体験をした。まさしく“百聞は一見に如かず”だ。26日 名峰コルバクシ(5,897m)を眺めながら4,200m迄トレッキング(3,800m迄専用車が入る)。高山病に苦しんだ。27日 専用車で4,800m迄入る。チンボラソ峰(エクアドルの最高峰で6,310m)の登山基地5,000mの山小屋迄登る。僅か200m、されど200m、遅々たる歩み……。ここでも高山病に苦しめられた。3月1日 国内線と船を乗り継いで、ガラパゴス諸島の一つサンタクルス島へ移動。進化論のダーウィン研究所へ行く。2日、3日 クルーズ船で4つの島に渡り、色々な動物を見た(ガイド付きが原則で島内では放尿は絶対に禁止)。午後は別の浜辺に下りてスノーケリングで潜り、沢山の魚の群れや

大きな海ガメを見る。合間に浜辺でただ素直にボーと過ごした時間を決して忘れないだろう。岩場に憩うペンギンたち、その横の岩にはウミグアナが寝そべり、人懐っこいアシカが横に寄ってくる。後方のサボテンの林の中ではリクイグアナが実にかぶりつき、ぎょろりと目を向ける。それさえも可愛い。近くの湖では鮮やかなピンクのフラミンゴが餌を啄んでいる。その他にも沢山の動物に出会った。ここでは動物も鳥も魚も生きとし生けるもの全てが一緒、その中に一人ポツンと居る私も吸い込まれている。この地球上に居る全ての物一つ一つが同じ輪の中に居る。永遠と一瞬、全てがひとつ全て同じ、大きな自然、その中の一点。ガラパゴス諸島の高く澄んだ青空を悠々と舞っている多くの鳥たちと、幾重にも折り重なった様々なブルーの海原と…。もう一度行きたい。ガラパゴス諸島へ…。



【追悼登山】 玄武山(974m) 4月28日(日)

慰霊の思い新たに

川越 政則(A-004)

平成25年4月に玄武山で亡くなった妻典子の五年祭を終え、節目として毎年恒例にしている慰霊登山に日本山岳会宮崎支部の皆さんにも多数ご参加いただいた。

6時に宮崎産業経営大学のグラウンドを出発し、途中休憩をはさみながら高千穂町田原の玄武公民館に9時半到着。5年前の事故当時と違い、空には雲ひとつない絶好の天気となり気温も上がり始めていた。準備をしっかり済ませ、民家の点在する舗装された急坂を登山口まで上がる。その脇にはいつもながらのたくさんの草花が出迎え、暑さを忘れさせてくれる。

杉や落葉樹に囲まれた登山口に取り付きほっとしたのも束の間、次第に急登となり息が上がる。ペースが落ちるが、当時にはなかった新しく設置されたロープを頼りに皆で声を掛け合いながら登る。事故現場手前の玄武城跡で一息つき、最後の急坂を登り11時前によく9合目付近の現場に到着。時間差はあったが皆到着され、改めて皆さんの気持ちが痛いほど伝わり胸が熱くなった。現場付近にだけ毎年咲き誇るアケボノツツジが残念ながら今年もう終わっていたが、私たちが訪ねるのを待っていたかのようにミツバツツジが最後の花を残してくれていた。献花の後、一人一人に線香を手向けていただいたが、誰ともなく「典ちゃん、来たよー」との声があがり、目頭が熱くなった。

後ろ髪をひかれながら「また来年」の約束をしつつ下山開始。下りは一層慎重に足を進めた。予定より少し遅れ無事全員13時20分に玄武公民館到着。昼食を高千穂町でとり、宮崎産業経営大学に17時到着した。

妻の命日に合わせ毎年長男とこの玄武山に登っているが、ここに来るといつも妻が笑顔で迎えてくれているような気持ちになる。いつも見守ってくれていることに感謝し、家族全員で力を合わせ前に進んでいくことを改めて誓った。今年は懐かしい山仲間の皆さんと一緒にだったことで、さぞ喜んでくれたことだと思う。

今後の安全を誓うとともに、ご一緒いただいた日本山岳会宮崎支部の皆さんに深く感謝申し上げたい。

追悼 - 典子さん

谷口 敏子(13062)

宮崎支部発足以来、最も残酷で悲痛な出来事であった川越典子さんの玄武山遭難の4月が巡ってきた。玄武公民館でガタガタ震えながら、必死に山に向かって祈ったあの日から5年の歳月が流れた。今もあの日の光景はまざまざと脳裏に刻まれている。一口にもう5年というけれど、ご家族にとっては悲しい辛い日々であり、それを乗り越えていく一日一日の積み重ねであったろうことは想像に難くない。ご家族が心を込めて慰霊を続けて来られたことは、時折お詣りさせていただいた祭壇を見ても、遺品が立派に祀られ今も典子さんがそこにいるような佇まいからも察せられる。家庭人としても人としても尊敬している私の無二の親友だった。山行も毎年の全国支部懇も海外トレッキングもいつも一緒だった。優しく、穏やかで、真面目でいつも山行の中心にいる人だった。今回の5年祭の追悼登山に、ご家族のこの上ないご配慮のもと彼女の人柄を偲ぶ18人の仲間が参加したことは、何よりも有難く嬉しいことだった。

きっと「会いたかったよう～」と喜んでくれたと思う。あなたの思いも背負ってこれからご主人も一緒に登るからねと誓った。私たちはこの事故を教訓として決して忘れることなく山行に生かし、また次代を担う仲間を引き継いでいかなければならない。それが何よりの供養であろうと……

＜参加者21名＞

拵 恵子・久寝慧子・清水弘子・清家順子・谷口敏子・十川むつ子・多田登美子・恒吉紹子・服部澄子・栗林淳子・前原満行・荒武八起・末永軍朗・谷口菊美・武田芳雄・酒井保男・多田周廣・平田五男・川越政則・川越宏則・須江裕之



それぞれの思いを胸に 黙して歩く

新入会員のご挨拶



林田 明美 (16928)

私の実家は宮崎県。嫁ぎ先の鹿児島県ではスポーツクライミングや登山を障害児と共に実施しています。山岳会に入った理由は10年以上前に遡ります。その頃息子が電柱や木に登り、人様から躰けが出来ていないとか、子育てをやっていないとか言われていた頃でした。少しでも落ち着かせようと始めたのがスポーツクライミング。これが見事にはまり、そこから親も一緒に岩登り、山登り、沢登りをするようになりました。暫くして、栃木県で障害者登山をしていることを知り、日光白根山に研修に行きました。そこで出会ったのが日本山岳会茨城支部の方達でした。そして、その方達のご紹介で宮崎支部に入会しました。子供の行事や夫の都合でなかなか参加は難しいですが、頑張りますので宜しくお願いします。



鬼束 友美 (A-005)

以前から山登りは大好きでした。元山岳会の人と一緒に登っていました。その人は植物や野鳥の名前、山でのマナーなどをいろんなことを話してくれました。また山岳会のメンバーの方から自然の中で食欲に楽しむ為、いろんな場所を興味をもって調べることなど、山登りの奥深さを教えて頂いています。山岳会に入り、夢であった子どもとの登山を2回ほど経験させて頂きました。山岳会のメンバーの方が山登りの途中で子供を気遣い励ましてくれたり、心配してくれたりお世話になりっぱなしです。自然の厳しさ、チームワークの大切さ、さまざまな経験を積み、困難に立ち向かう能力や達成感を子どもに経験してもらいたいと思っています。また親子の会話も山登りをしながらはずみずみ。登山を通して少し息子がたくましく思えてきている今日この頃です。



櫻木幹雄 (A-006)

会員増強と若年層への拡大が課題ではないかと思い、後期高齢者を目前にした私のようなものが入会することにためらいがありました。しかし、支部長さんの強い要望があり仲間入りさせて頂きました。私と山とのかかわりは中学生の頃、元日登山と称し鰐塚山に登り、途中の水場(確か近くに祠があった)でイモリ程の小さい山椒魚をみつけ感動したことが始まりでした。今は年に5,6回、大崩・傾や久住山系など九州の山を中心に妻や退職者会の仲間とゆとり登山を楽しんでおります。つい最近、

開聞岳・祖母山・島野浦・冠岳と続けての山行でしたが、会との日程が合わず失礼しました。先輩の皆様どうぞ宜しくお願い致します。



永井 平 (A-007)

昨年1年間の全国での山岳遭難件数は3,000件を越し、しかもその半数以上は60歳以上が占めるとありました。年を重ねるにつけ十代のころ山歩きをしたことを思うとき、この遭難の一步手前ではなかったかと反省することしきりであります。水も食糧品も携行せず一人きりで運動靴のまま双石山へ分け入りどうやって入り、出てきたのか今もって不思議でなりません。鰐塚山に積雪があったと聞いては、これまたカメラだけ手に持ち途中、下半身が埋まるほどの積雪の中をラッセルする愉快な感触で登ったことなど今思うと無謀の一語に尽きます。自然の脅威を知らなかった若気の至りです。ただ自然の中に我が身を置くことの快感だけは、年を経ても少しも衰えることはありません。そのために足腰だけは鍛錬していつまでも山歩きができるように日々精進しております



栗巣 タツ子 (A-008)

このたびは日本山岳会宮崎支部に入会させて頂き有難うございます。思えば還暦の思い出にと屋久島縄文杉登山したことを最後に山には遠退いていました。10年ぶりに山々に触れる様になるとは思ってもいませんでした。きっかけをつくって下さった方々に声をかけて頂きお礼申します。無理せず登れる山から挑戦しようと思います。よろしく願いいたします。

木陰行く老鶯鳴いて遠見場山愛でることの美しさ覚ゆ
タツ子



蔵屋 とよ (A-009)

山歴回想：20代前半はスキー、雪山にしか興味ありませんでした。帰宮してから職場の先輩に誘われるまま「レデース山の会」に参加させて頂き達成感を味わいました。30代は子供に自然体験をさせたいという思いで夫も巻き込み、40代は中休み。50代の今、改めて山を歩く楽しみ、足元の小さな草花に目を向けるゆとりが出てきたような気がします。自然の中で先輩方の知識や経験をお聞きしながら感性を刺激していきたいと思っています。



高橋 節代 (A-010)

都甲豈好様にご近所の縁で昨年、山の日にえびの高原大浪ヶ池周りに参加させていただき今年4月には、高齢の母(深田美恵子 A-011)とミツバツツジが咲き、青い海を眼下の島野浦(遠見場山)に行くことができました。もともとウオーキングが好きで様々なイベントには参加しておりましたが、それとは違った達成感、山頂での格別な昼食、何より宮崎支部の皆様の優しいお言葉、心遣い、逞しさに触れ是非とも入会したくて母子で申し込みをお願いしました。仕事の都合上参加出来ない日もあろうかと思いますが、また緑の木漏日、鳥のさえずりを聴きながら皆様方と山頂を目指せる日を楽しみにしております。

酒井保男(一三六二二)
自然杉仁王構えの枝の艶
白滝や飛沫を頬に握り飯
不如帰鳴き連なりて公達偲び
果てしなくコスモス晴れやセーラー服
駒草や尾根風耐える石囲み

宮崎の自然 アケボノツツジ

石井 久夫 (5120)

九州の脊梁山系1,000m級の高山の岩場に自生しているツツジで地方によって変種に分けられている。アカヤシオ(nikoense 日光の)、アケボノツツジ(shikoki anum 四国の)、ツクシアケボノ(pentaphy 5枚の)と変種の名前が付いていて、それぞれの自生地がアカヤシオは福島県以西・滋賀県・三重県の太平洋側、アケボノツツジは本州(紀伊半島)・四国、ツクシアケボノは九州に生息している。

宮崎は祖母傾山系・大崩山五葉山塊のブナ・ツガの原生林の花崗岩地帯に自生し岩角地植物群として代表的なものがツクシアケボノツツジでツツジの仲間であるミツバツツジ・ツクシシャクナゲ・コメツツジなどと共生している。輪生葉が5枚あるのでゴヨウツツジとも呼ばれている。

ツクシアケボノツツジは落葉性の低木で枝先に花後に5枚の葉を輪生し自然林の尾根すじに生育している。花の色が桃色で夜明けの色に例えてアケボノの名が付いている。見分けるのにはアケボノツツジは花柄が無毛で、花糸(オシベの軸)の無毛がツクシアケボノでまぎらわしくて見分けが難しい。九州に生育しているので、ツクシアケボノといった方が分かりやすい。現在国の絶滅危惧種Ⅱ類にランクされ貴重なツツジである。六峰街道の諸塚山・二上山、さらに尾鈴山にも自生している。

祖母山や市房山の登山中の春5月あちこちでツクシアケボノツツジに出会い心が躍ったものである。特に印象的なのは霧に包まれた原生林にお腕状の花を下向きに咲かせたツクシアケボノツツジの花の印象は幻想的で忘れ難きものとして心に刻まれている。宮崎県は自他共にゆるすツツジの宝庫で自然そのもので、県北の大崩山のツツジの仲間はツツジ類の標本室と呼ばれている。九州の高山にはツクシアケボノツツジが生息しているのになぜか霧島山系にはアケボノツツジの自生がない。市房山から霧島山系をとび越えて高隅山系の御岳に自生しているのは不思議そのものである。

<メモ> アケボノツツジ

(Rhododendron pentaphyllum)

日当たりの良い山地に生育する。花が終わって、枝先に5枚輪生状につく葉は3-6cmの広楕円形で、花は5月頃紅色の花をやや下向きに咲かせる。花冠は5cmの鐘形で5裂、オシベは10個。花柱と子房は無毛で蒴果は熟すると5裂する。



[事務局だより]

支部行事予定

月 別	行 事 名	期 日	備 考
7月	第34回全国支部懇談会・記念登山	7月21日(土) - 24日(火)	北海道・大雪山系
8月	山の日関連行事	8月11日(土)	双石山・市山協との共催
9月	ときめき家族登山	9月16日(日)	高房山(337m)

支部会務報告(4月 - 6月)

月 日	事業・行事	開催場所	人員	備 考
4.1	宮崎支部報発行			150部 A4 8ページ
4.3	平成29年度会計監査	宮崎市・市民活動センター	5	
4.12	総会資料作成	宮崎市・市民活動センター	9	
4.14	平成30年度通常総会	宮崎市・市民活動センター	34	
4.14	懇親会	ホテルメリュージュ	36	
4.22	4月定例山行	延岡市	31	島野浦・遠見場山
4.28	追悼登山	高千穂町	21	玄武山
5.10	支部役員・委員長等会議	宮崎市中央公民館	8	
5.10	第230回定例登山研究会	宮崎市中央公民館	25	ミニ講和
5.12	5月定例山行	日向市	33	冠岳
6.7	支部役員・委員長等会議	宮崎市中央公民館	10	
6.7	第231回定例登山研究会	宮崎市中央公民館	24	ミニ講和・スクワット
6.10	6月定例山行	宮崎市	*	朝陣野 (雨天のため中止)

グループ・個人山行(届け出分)

月 日	山 座	場 所	人員	日 数	備 考
4.20	大山	神奈川県	4	1	麗山会主催
4.22 - 23	天上山	伊豆七島・神津島	8	2	麗山会主催
4.29	大崩山	北川町・北方町	6	1	日向トレッキング主催
4.30	丹助岳	日之影町	4	1	日向トレッキング主催
5.3	阿蘇山	一の宮町	3	1	日向トレッキング主催
5.3	祖母山	高千穂町	4	1	支部会員有志
5.4	冠岳	日向市	5	1	日向トレッキング主催
5.4 - 6	北アルプス・八方尾根	長野県白馬村	9	3	麗山会主催
5.5	矢筈岳	日之影町	3	1	日向トレッキング主催
5.6	北浦88ヶ所巡り	北浦町	7	1	日向トレッキング主催
6.8 - 9	平治岳	大分県竹田市	8	2	宮崎山友会主催

事務局からのお知らせ

1. グループ登山の届け出の厳守：別紙様式(定例登山研究会で配布済)に登山計画書を作成し、事務局に提出して下さい。
2. 会員の募集について：平成30年3月までに、会員1名・会友5名の入会があり、さらに4月に2名の会友が入会され、支部活動も賑やかになりました。これからも会員募集にご協力下さい。

編集後記

支部長の巻頭文に記されたように、会員の高齢化・減少は喫緊の課題ですが、幸いに少しずつ会友も増加し、定例山行の遠見場山・冠岳と多くの参加者で楽しい山行でした。そしてまた沢山の仲間間で追悼登山ができたことが何よりでした。毎月の山研も自由な意見交換や健康ミニ講話などで、盛り上がりを見せてきました。支部報65号は多くの方から寄稿頂き、増頁し豊かな紙面にいただきました。有難うございました。これから大きな行事が目白押しです。一緒に頑張っていきたいです。

こだま

研して山ほととぎすほしいま、 杉田 久女

公益社団法人 日本山岳会宮崎支部報 第65号

発行責任者：荒武 八起

編集責任者：谷口 敏子

事務局：都甲 豈好

〒880-0926 宮崎市月見ヶ丘5-20-4

Tel, Fax 0985-53-0150

E-mail: toko150@miyazaki-catv.ne.jp

口座：ゆうちょ銀行 記号17330-2 番号9336371

名義人：(社) 日本山岳会宮崎支部